緑化だより No.215

令和 7年5月号

ムベ

○ 季節の花（いはつつじ（ツツジ））
○ 水生昆虫の話
（ミズムシ）
○ 小さな世界こけ（胞子体の違いⅡ）
、

○ 研修会のご案内
○ お知らせ・ご案内
○ 展示会

5月　休園日はありません

ひろしま遊学の森
広島県緑化センター
〒732-0036　広島市東区福田町 10166-2
TEL 082-899-2811　FAX 082-899-2843　URL https://ryokka-c.jp
広島県緑化センター二次元コード

季節の花

いはつつじ(ツツジ)

「水伝(みなつた)ふ 磯(いそ)の浦廻(うらみ)し 石(いは)つつじ
茂(も)く咲く道を またも見むかも」

作者 日並皇子官舎人(ひなしみのみこのみやのとねり) 万葉集 巻2-0185

これを訳しますと
(水が流れている水ぎわの岩に たくさん咲いているつつじが見える
この道をまた見ることが出来るのだろうか)

持統天皇 3 年(689 年)4 月、天武天皇の子の草壁皇子(くさかべのみこ)が 27 才という若さで亡くなりました。

皇子に仕えていた舎人(とねり)の一人が、亡き主人である草壁皇子(くさかべのみこ)、別名日並皇子(ひなみしのみこ)を偲んで詠っています。

ここに詠われている「石(いは)つつじ」は岩のあたりに咲くツツジの意味で、ヤマツツジ、サツキ、キリシマツツジ」などが含まれます。

ツツジは、東アジアが原産でツツジ科ツツジ属の樹木の総称です。

日本には 17 種類のツツジが自生し、4 月～5 月頃に、先が 5 つに割れた筒状の花をつけ、色は赤、ピンク、白などがあります。

広島県の山地では主に、ヤマツツジ、キシツツジ、ヒメヤマツツジ、コバノミツバツツジなどが林縁や渓流に自生しています。

ヤマツツジ

ツツジの栽培の歴史は古く、江戸時代の元禄(1688 年)の頃、江戸ではツツジが大流行し、九州の久留米藩ではクルメツツジが、長崎県平戸ではヒラドツツジが改良されるなど園芸種がたくさん作られました。

これらのツツジは、大名の参勤交代などによって全国に広まりました。 現在では公園、街路樹、生垣に植栽され、花の咲く 5～6 月頃には、私たちの目を楽しませてくれます。(上村)

水生昆虫の話

ミズムシ

晴れやかな青空の広がる季節となりました。新緑の初々しさから植物の息吹を感じる今日この頃ですが、山地渓流の生き物たちも活発に動き始めています。

ところで写真の生き物を見たことがありますか？

見たことがある方は、きっと第一印象が「気持ち悪い」と思われた方も多いのではないかと思います。

ミズムシ

私がこのダンゴムシのような生き物と出会ったのは小学生の頃。農業用水路で魚とりをしている時に、水草などをガサっとすくい取ると、泥と混じってウジャウジャと網の中に入っており、どちらかというと迷惑な存在で、丸まらない川のダンゴムシの仲間なのかなと思っていましたが、いろいろと調べてみたところ「ミズムシ」という生き物だと知って、ビックリしたのを今でもはっきり覚えています。

この「ミズムシ」という名前。あの足にできる水虫を連想する方も多いのではないかと思います。水生甲虫（カメムシ目ミズムシ科）の水面をスイスイ泳ぐ昆虫とも同じ名前なので紛らわしいのですが、こちらはワラジムシ目ミズムシ科の「ミズムシ」で、いわゆる虫ではなくエビやカニのような甲殻類の仲間です。体長はその一生を1cmほどで水の中で過ごす水生生物です。

どちらかというと砂泥底の流れが緩やかな河川や湖沼、池などで見ることができます。水草の根元に近い部分や、落ち葉などの堆積物の中などに生息しており、水質汚濁にも強いため「きたない水」の指標生物でもあります。ですが、山地渓流の落ち葉が堆積した水たまりのような場所でも見ることがあるので、上流から中下流まで、北海道から九州までと日本中に幅広く生息しているようです。

しかもこの「ミズムシ」は、藻類や動植物の死骸、排泄物などの有機物（水中の汚れ）を餌としており、微生物や今までご紹介した小さな水生生物たちと同じ様に水環境を浄化してくれています。またゲンゴロウの幼虫やヤゴなどの肉食系水生生物たちとっては大切な栄養源にもなっており、水中の生態系ピラミッドの底辺に位置するとても大切な存在でもあります。

近年、農薬の影響なのか農業用水路では見かけることがほぼなくなりました。全体的に数が減ってきているようにも思われます。どうやら比較的飼育繁殖が容易な種でもあるようなので、大切に守りたい「ミズムシ」です。（西村）

小さな世界 こけ

胞子体の違いⅡ

タイ類の胞子体(その1)

タイ類は大きく**ウロコゴケの仲間**と**ゼニゴケの仲間**に分類されます。

ウロコゴケの仲間は日本に37科580種類があるとされ、配偶体は、茎と葉がある茎葉体（けいようたい）と、葉が這ったように伸びる葉状体（ようじょうたい）のものがあります。

今回はウロコゴケの仲間の胞子体の特徴を見てみます。

蒴柄は、柔らかくガラスのように透明です。その先に暗褐色か黒色の、球形または楕円形の蒴をつけます。

成熟した蒴は4裂、または縦に2裂します。裂けた蒴には弾糸があります。弾糸は胞子が変形したもので、バネのような構造で乾湿運動により動いて胞子を飛ばします。種により形が異なり、種の同定に役立ちます。弾糸の塊は肉眼では煙か雲のように見えます。

センボン類の胞子体は固く、役目を終えても蒴柄や蒴が長い期間残りますが、タイ類は1週間程度で役目を終えると、蒴柄は萎れて糸くずのようになってしまいます。

又、胞子を作る順はセンボン類と逆で、胞子を成熟させたあと胞子体を伸ばします。（山根）

ホソバミズゼニゴケの蒴

クモノスゴケの蒴
割れた蒴には弾糸が見える

役目を終えた
オオホウキゴケの蒴

フルノコゴケの蒴

研修会のご案内

○5月 9日(金) 『5月の植物観察会 』 10:00～12:00 学習展示館前 集合
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料
講師：元NHK文化センター
アシスタント 上村 恭子

○5月 10日(土) 『春のバードウォッチング』 10:00～12:00 学習展示館前 集合
散策路を歩きながら野鳥を観察します
※自由参加、無料、双眼鏡持参
講師：日本鳥類保護連盟
三次地方分会事務局長
衛藤 慎也

○5月 11日(日) 『第17回 ひろしま遊学の森こども写生大会』 10:00～12:00 学習室 集合
～春の緑化センターを描こう～
※小学生以下対象,自由参加、無料、画材(画用紙以外)持参
講師：元中国新聞社図画教室
指導審査員 横山 直江

○5月 14日(木) 『春の写真教室』～春を写そう～ 10:00～12:00 学習室 集合
散策路を歩きながら、植物の撮影について学びます
※要予約(残りわずか)、無料、カメラ持参
講師 ：二科会会員
宗岡 泰昭

○5月 16日(金) 『コケの観察会』 10:00～12:00 学習室 集合
室内で基本を学び、屋外で観察します
※自由参加、無料、ルーペ持参
講師：広島大学名誉教授
山口 富美夫

○5月 25日(日) 『庭木の病虫害教室』 10:00～12:00 学習室 集合
防除と土づくりについて学ぼう
※自由参加、無料
講師：樹木医
菅 信貴

○5月 27日(水) 『松の手入れ(春)』 10:00～12:00 学習室 集合
基本を学び、屋外で実技指導を行います
※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参
講師：NPO法人 樹木医ひろしま
工藤 徹

○6月 1日(日) 『自由工作塾』 10:00～15:00 レストハウス前
自然の素材で自由に工作
※ 自由参加(随時受付)、材料費1作品100円
講師：緑化センターボランティア
ふれあい湧

○6月 1日(日) 『森のネイチャーゲーム』 10:00～15:00 レストハウス前
自然の中で遊びを体験します
※ 自由参加(随時受付)、無料
講師：広島市
シェアリングネイチャーの会

♪☆ お知らせ・ご案内 ☆♪

・ひろしま遊学の森 スタンプラリー2025春 ～5月18日(日)
緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット！

・第23回 ひろしま「山の日」県民の集い 6月 1日(日) 10:00～15:00
山に親しみながら 森林の役割や大切さを知ろう
場所:レストハウス前広場
山の手入れ,自由工作塾,森のネイチャーゲーム

◎展示会

場所: レストハウス (ボード展示)

・**日本画作品展** ～5月23日(金)
福田公民館などで活動している「葉月会」「弥生会」「長月会」による作品の展示

場所: レストハウス (ガラスケース展示)

・**陶友会作品展** 5月1日(木)～6月24日(火)
福田公民館などで活動している「陶友会」による作品の陶芸展示